

こちよさを伝える新しいものさしを考えよう

室内環境の良さを伝える指標作成に向けた意見交換会

申込はこちら
締切 11月8日 17時

2026年11月10日(火) 17:00~19:00

オンライン開催【ZOOM ウェビナー】 参加無料



クリック



読み取り

国立研究開発法人 建築研究所では「誰もがわかる快適な室内環境の新しいものさし」の構築を目指して、昨年から3回のシンポジウムを開催しました。この度第4回では「夏の暑さ湿度・除湿」をテーマに、現場で求められる【こちよさの指標】とは何か、ご講演とパネルディスカッションを通して議論を深めて参ります。

プログラム

Main Theme : 夏の暑さと湿度・除湿

17:00~17:10 開会・主旨説明 三浦 尚志氏(国立研究開発法人 建築研究所 上席研究員)
本シンポジウム開催の狙いと参加者への室内環境指標に対するご意見のお願い

17:10~17:30 田辺 新一氏(早稲田大学 創造理工学部建築学科 教授)
「夏のこちよさと安全をどう測るか」
-暑熱・湿度・熱中症から考える室内環境の評価方法-
高温多湿化する夏の住宅では、室温だけでなく湿度、気流、放射、行動や適応を含めて室内環境を捉える必要がある。本講演では、温熱快適性と健康・熱中症リスクの観点から、夏の「こちよさ」と安全性を評価する指標を整理し、高断熱住宅における湿度・除湿の課題も含め、今後の室内環境評価のあり方を考える。



1958年福岡県生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。専門分野は建築環境学、工学博士。デンマーク工科大学、カリフォルニア大学バークレー校、お茶の水女子大学助教授を経て、早稲田大学建築学科教授、理事(キャンパス企画、産学連携担当)、第57代日本建築学会会長、2025年11月紫綬褒章受章

17:30~17:50 都築 和代氏(関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授)
エアコンタイマーや異なる換気が寝室温熱環境と睡眠や体温へ及ぼす影響
高気密・高断熱住宅には機械換気が義務付けられているが、温熱環境についての定めはなく、居住者が好みの環境をつくることができる。しかし、睡眠中のエアコン使用はエネルギー節約に反すと感じ、不健康とジレンマに陥ることもある。デシカント換気が備えられた住宅でエアコン使用を制御したときの寝室温熱環境や睡眠中の人体への影響を概説する。



1985年奈良女子大学家政学部住居学科卒。1990年奈良女子大学大学院博士課程修了。学術博士。産業技術総合研究所総括研究主幹。豊橋技術科学大学大学院教授を経て、2021年から関西大学。専門分野は建築環境工学、環境人間工学、高齢者の温熱感覚、子どもの体温調節、睡眠環境。

17:50~18:10 竹中 啓氏(建築研究所 環境研究グループ 交流研究員)
家庭用ルームエアコンの除湿方式について
住宅の高気密・高断熱化により顕熱負荷が低下する一方、換気や室内発湿による潜熱負荷は残存し、冷房負荷の低SHF化が進んでいる。そこで、家庭用ルームエアコンにおける各除湿方式の仕組みと特徴、ならびに顕熱・潜熱処理特性の違いを整理し、住宅の時刻別・居室別負荷との照合を通じて、負荷条件に応じた各方式の適用性を検討する。



2012年ダイキン工業株式会社入社。ルームエアコンの性能評価、先行開発、省エネ技術開発および低GWP冷媒システム開発に従事。2025年より建築研究所環境研究グループの交流研究員としても活動。本年より家庭用ルームエアコンの除湿方式と冷房負荷の関係について研究。

18:10~18:55 パネルディスカッション
田辺新一氏・都築和代氏・竹中啓氏 進行：三浦尚志氏

18:55~19:00 閉会

申込 URL : https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_4xW90RpTKqJimXad5aFtA

お申し込みは 2026年11月8日(日) 17時までとなります。

【個人情報の取り扱い】

ご登録いただいた個人情報は、以下の目的に限り利用いたします。

・本ウェビナーの開催・運営・管理(参加登録完了通知、視聴用URLの送付など) ・今後のウェビナーの案内
・本研究課題に関わる意見募集および情報共有等のご案内

主催者及び事務局は、ご本人の同意なく第三者に個人情報を提供することはありません。

上記内容にご同意の上、ご登録ください。

主 催 : 国立研究開発法人 建築研究所 環境研究グループ

お問合せ : 事務局 合同会社 TAKAO スタジオ 牧内 (info@kokochiyosa.org)

20261008

